

自身を守る地震への備え

— 「いつか」のために自助の大切さ —

日 時：令和元年10月29日（火） 10:00～12:00

場 所：名東生涯学習センター 視聴覚室 2階

主 催：名古屋市教育委員会

イベント：名東生涯学習センター後期講座 「防災公開講座」

参加者：20名

講師：NPO法人 愛知県防災士会 防災士

櫻井 衛 （副理事長・兼 企画委員長）

ファシリテーター：阿部 健二 （理事・事務局長兼広報委員長）

今回の出前講座では、初めて手話通訳ボランティアの木村さんと川村さんのお二人にお手伝いを頂きながらの防災講演ということもありましたので、少し早めに会場に到着し、櫻井講師から手話通訳のボランティアの方へ専門用語の解説と一連の流れを説明するほか、講師が説明するスピードの確認をして頂きました。

初めに当名東生涯学習センターの菊池さんから講師の紹介と併せ『火事の発生など緊急な対応が必要となりました時は、避難誘導をしますので、落ち着いて行動してください。』と、参加者へ冷静な行動を促した後に、講師へマイクのバトンタッチをして頂きました。



櫻井講師と手話通訳の方とのコラボ

講師は、以前、名東区に住んで居て、将来は、この近くに住みたいという願望があったことを、前段のプロフィールの一つに披露しながら本題の「防災講話」の説明へと繋いで行きました。

上記サブタイトルにもありますように大切な家族の命を守るためには、自助の進めが必要であり、ハザードマップ（防災マップ）の常備並びにマップの更新をはじめ公助10%、共助20%、自助70%が示す割合から、助けを待っているだけでは、自分や家族の命を守る事に繋がらないことを強調し、耐震診断や家具の固定、備蓄等に至る防災対策について、常日頃から関心を持ち、自然災害が起きた時を想定し、準備しておくことが必要との勧めを説きました。

また、10月26日（土）～27日（日）にかけて開催された知多市産業まつ

りで講師自ら、家具の転倒防止や乾パンの無料配布を行ったことなど防災啓発への取り組みを紹介しました。

次に、日本を東西に分断する糸魚川断層に触れた後、南海トラフ巨大地震の4種類の連鎖に関する地震のメカニズム、そして、日本には活断層が約1,000箇所あることから、正断層と逆断層のメカニズムを説き、東海地方にある断層地帯、また、過去に起きた地震に至るまでの説明を詳しく行いました。

その他に北海道で起きたブラックアウト(広域停電)によりカードリーダーが使えない状況にあったことから、普段、ある程度の現金を持っていると安心につながるとのことや名東区の一部に液状化地帯があり、家を建てる時の地盤調査をしっかり行い、地震により液状化になっても家が傾かない対策も必要のことや、地名や歴史から学ぶことにより、家を建てる条件に合致するか、どうかを見極める必要があることも説明しました。

24年前の1995年に起きた阪神・淡路大震災に学ぶとして、逃げ場を確保するために扉を開けておくということと、テレビやテレビボード、冷蔵庫の転倒防止・家具の固定化について、具体的に説明するため、写真と実物の金具を見て頂いて、簡単にできること、そして、改めて、



防災講話を真剣に聞く参加者の皆さん

「自助の大切さ」と家庭の備蓄品の備え、排便のための簡易トイレの常備を参加者の皆さんに理解して頂くことがきました。

防災に関して、いろいろなことに触れながら地震などへの防災対策について、講師から縷々説明を進めてきた後半に、巨大地震が多発した9世紀を注目し、歴史は繰り返すことのことわざをなぞると東日本大震災後の9年後、つまり、来年に南海トラフ巨大地震が発生するかも知れないと警鐘を鳴らし、あっという間の2時間でしたが、本日の「防災公開講座」の締めくくりとして、最後に次のことをお伝えし、閉幕とさせて頂きました。

防災 ⇒ 減災

- ・まず、自分が生き残ること。
- ・そして、地域の人と一緒に災害に立ち向かうこと。

文責・写真：阿部 健二